

環境厚生委員会資料

健康福祉部
令和6年10月23日

■報告事項 1件

- 1 島根県幼児教育振興プログラムの改訂について
(子ども・子育て支援課) … 1

【別冊資料】

資料 島根県幼児教育振興プログラム改訂版
「しまねの架け橋期の教育ガイド」～幼児教育と小学校教育をつなぐ～

島根県幼児教育振興プログラムの改訂について

1 位置付け等

- ・ 幼児教育の質の向上に向けた県の基本的な考え方を示すため、島根県幼児教育センター（県健康福祉部・県教育委員会）において、令和2年度に幼児教育振興プログラムを策定。
- ・ 第2期島根創生計画、次期島根県教育大綱、しまね教育振興ビジョン（案）を踏まえた改訂を行う。
- ・ 子どもを取り巻く関係者が一体となり、架け橋期（5歳児から小学校1年生までの2年間）の教育の充実を図ることを目的とする。

2 改訂体制

- ・ 島根県幼児教育推進協議会にワーキングチームを設置し、協議
- ・ 幼児教育関係団体の長、県小学校長会長、市町村幼児教育担当等で構成

3 骨子（案）

別紙のとおり

4 今後の予定

令和6年5月から令和7年1月までに幼児教育推進協議会を5回開催

令和6年12月パブリックコメント実施

令和7年3月公表

骨子（案）

I 改訂の趣旨

- 1 改訂のねらい
- 2 国の取組
- 3 県の取組

- (1) しまね教育振興ビジョン（案）
- (2) しまねの架け橋期の教育

II 円滑な幼小連携・接続の推進のために大切にしたいこと（2つの柱）

- 1 つめの柱： 「人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性」の理解
- 2 つめの柱： 「架け橋期の教育の充実」のための一体的支援
 - (1) 架け橋期の教育の充実の方向性
 - (2) 架け橋期の教育の充実をめざす上で期待する変化

III めざす子ども像の共有

「いきいきと 周りの『ひと・もの・こと』と関わりながら 遊びこむ子ども」
～主体的な学びに向かい、深い学びへつながる姿をめざして～

- (1) 「いきいきと」・・・主体的な学び
- (2) 「周りの『ひと・もの・こと』と関わりながら」・・・対話的な学び
- (3) 「遊びこむ子ども」・・・深い学び

IV 取組の方向性

1 めざす子ども像実現のための視点

- (1) 発達過程にふさわしい生活の場
- (2) 発達の段階を踏まえた保育・教育
- (3) 一人ひとりの実態に応じた特別支援教育の視点

2 子どもを中心につなぐしまねの幼小連携・接続

- ・ 幼小をつなぐ発達のめやすの共有

V 幼児教育施設における取組

1 めざす子ども像実現のための幼児教育の取組の具体

- (1) 学びの循環
- (2) 小学校接続を見通した視点
- (3) 円滑な接続を支える特別支援教育（保育における特別支援教育の視点）

2 施設内研修における人材育成（保育者の資質・能力の向上）

3 家庭・地域との連携

- (1) 家庭教育との連携
- (2) 家庭教育をサポートする役割（地域との連携）

VI 小学校における取組

- 1 小学校生活スタート期の工夫
- 2 生活科の取組例

島根県幼児教育振興プログラム改訂版
「しまねの架け橋期の教育ガイド」
～幼児教育と小学校教育をつなぐ～

I 改訂の趣旨

1 改訂のねらい

- ・ 現行プログラム策定時より、さらなる多様な価値観、予測不可能な社会の情勢等により、今後さらに複雑化する社会の中で、子どもの「生きる力」を育むための土台となる、幼児教育の質の向上と幼小連携・接続のあり方の見直しは重要

2 国の取組

- ・ 幼小の円滑な接続の促進

3 県の取組

- (1) しまね教育振興ビジョン（案）
- (2) しまねの架け橋期の教育

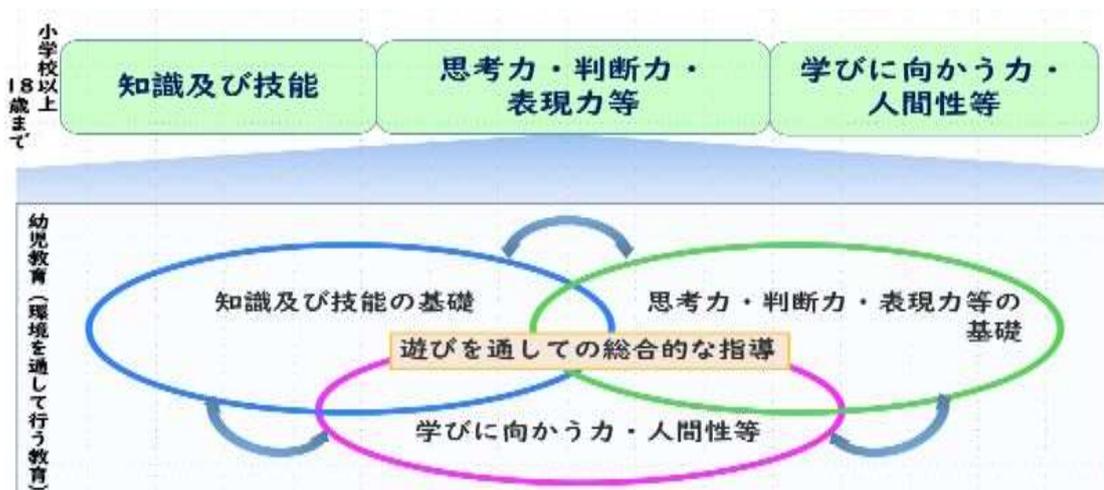
II 円滑な幼小連携・接続の推進のために大切にしたいこと（2つの柱）

1 1つめの柱： 「人格形成の基礎を培う幼児教育の重要性」の理解

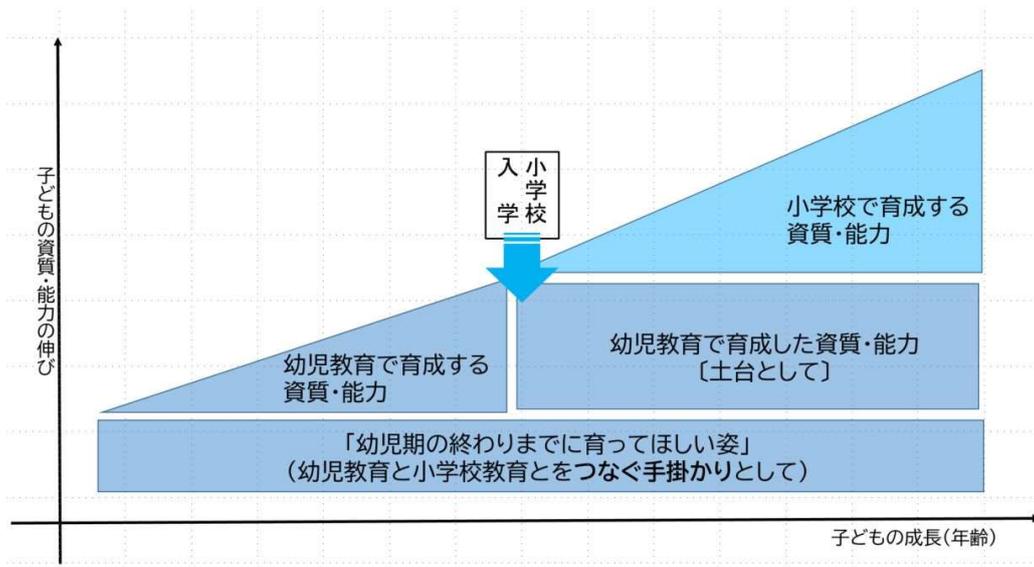
(1) 資質・能力の芽生え【遊びを通しての総合的な支援】

- ① 環境への主体的なかかわり
- ② 総合的に育まれる3つの資質・能力の基礎

(2) 幼児教育を土台にした「つなぐ教育」



- ・ 幼児教育から小学校教育への一貫した教育
0歳からの豊かな体験の積み重ねによる学びの連続性
- ・ 非認知能力（好奇心、協調性、粘り強くがんばる力等）は、小学校以降の学びに向かう力の基盤
- ・ 小学校入学という環境の大きな変化によって、子どもにとって障壁を生まないための円滑な幼小連携・接続



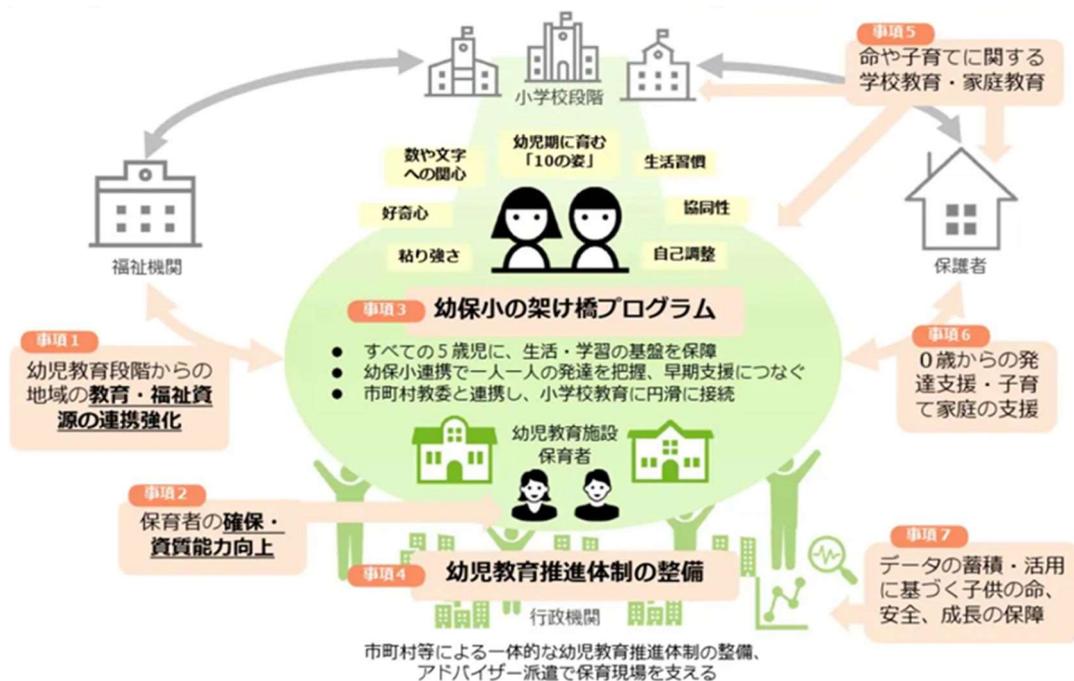
2 2つめの柱： 「架け橋期の教育の充実」のための一体的支援

(1) 架け橋期の教育の充実の方向性

- ① 幼児教育と小学校教育の相互理解
- ② 小学校以降、幼児期の学びを基盤に子どもが主体的に自己を発揮して学びに向かうこと
- ③ 幼児教育施設の施設種関係なく、幼小一体となって架け橋期の教育の充実に取り組むこと
- ④ 子どもに関わる関係者の一体となった支援

(2) 架け橋期の教育の充実をめざす上で期待する変化

- ① 架け橋期の子どもへの支援のあり方の見直し
- ② 子どもの学びの変容
- ③ 市町村の支援体制の充実



III めざす子ども像の共有 めざす子ども像

いきいきと 周りの「ひと・もの・こと」と関わりながら 遊びこむ子ども

～主体的な学びに向かい、深い学びへつながる姿をめざして～

- ・ 現行では、遊びの循環の中で「遊び育つ」姿をめざす。
- ・ 今回の改訂では、子どもが発達段階に応じて、遊びから自ら学びを獲得し、他者との関わりの中でさらに遊びに没頭し、遊びを発展させながら、課題解決し、身近な環境を文化的価値あるものへと変えていく、子どもの遊び（学び）が深まる姿を「遊びこむ」姿とし、めざす子ども像を設定
- ・ 小学校以降、特に架け橋期のめざす子ども像として、幼児教育及び小学校教育において実現をめざす。
- ・ しまねの地域資源を活用した保育・教育を通して育む。
- ・ 「遊びこむ」子どもの姿は、主体的・対話的で深い学びの土台
- ・ 幼児期の遊びこむプロセスは、学校教育での「問いを立て、解決方法を考え、解を得るまでやり抜く」学びへとつなぐ。

(1) 「いきいきと」・・・主体的な学び

- ・ 生まれながらにしてもつ、「自ら育つ力」を発揮する姿
- ・ 周囲の環境（ひと・もの・こと）に能動的に関わろうとする力を発揮する姿
- ・ 頭も心も体も動かして、主体的に活動する姿
- ・ 安心して自分の思いを思いのまま表そうとする姿

(2) 「周りの『ひと・もの・こと』と関わりながら」・・・対話的な学び

- ・ 興味・関心をもとに、様々なひと・もの・ことに関わる姿
- ・ コミュニケーションの楽しさや必要性を感じる姿
- ・ 友だちと伝え合い、学び合う姿（対話の満足感）
- ・ 協同的に活動する中で、気持ちに折り合いをつけようとする姿

(3) 「遊びこむ子ども」・・・深い学び

- ・ 自ら遊びに集中し、没入し、遊びの循環の中で試行錯誤を繰り返し、新たな発想、ひととの関わりから深い学びへと深化する姿
- ・ 環境（ひと・もの・こと）に能動的に関わるからこそ得る、気付き・発見等に対し、解決・挑戦する面白さを感じながら、さらに新たな課題に向けて取り組もうとする姿
- ・ 地域の豊かな地域資源を子どもが遊びに没頭する環境づくりに活用
- ・ 地域の地域資源を活用した実体験を子どもの学びの基盤に
- ・ 小学校教育の主体的・対話的で深い学びにつながる学びの姿

IV 取組の方向性

1 めざす子ども像実現のための視点

- (1) 発達過程にふさわしい生活の場
- (2) 発達の段階を踏まえた保育・教育
- (3) 一人ひとりの実態に応じた特別支援教育の視点

2 子どもを中心につなぐしまねの幼小連携・接続

- (1) 幼小の「接続」とは
- (2) 接続の基盤としての幼小対話
- (3) 幼小をつなぐ発達のめやす

【幼児教育から小学校教育で育みたい力】

乳幼児期に育てたい力(0歳～小学校就学時)		幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿	小学校での学び						
生活していく力	健康	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで運動し、健康な心と体を育てる。 ・自分のことは自分で行い、主体的に園生活を送る。 ・生活リズムを身に付ける。 	幼児教育と小学校教育との連携・接続	生活	体育				
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で行動し、自立心を育てる。 ・先生や友だちとかがわりを深める。 ・遊びを通して、一緒に活動する楽しさを味わう。 ・人に対する思いやりの気持ちを育てる。 ・きまりやルールを守り、規範意識を育てる。 				特別活動			
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の気持ちを言葉で表現する。 ・先生や友だちの話聞き、自分から考えや思いを話したりする。 ・日常の中で気持ちのよい挨拶をする。 ・絵本や童話に親しむ。 					道徳		
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・感じたことや考えたことを伝える。 ・音楽や造形活動、身体表現などで自分を表現する。 ・豊かな感性と創造性を豊かにする。 						国語	音楽
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境に主体的に関わり、生活に取り入れていく。 ・考えたり、発見したり、工夫したりし、好奇心・思考力・表現力の基礎を培う。 ・周囲の自然や社会に関わり、関心をもつ。 							
思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の中で文字や数量などに親しみ、関心をもつ。 	理科							
	健康な心と体		算数						
	自立心								
	協同性								
	道徳心・規範意識の芽生え								
	言葉による伝え合い								
	豊かな感性と表現								
	思考力の芽生え								
	社会生活との関わり								
	自然との関わり・生命尊重								
	数量・図形・文字等への関心・感覚								

参考：小山教授作成「幼小の12年間で身につけたい力」

(4) 幼小をつなぐカリキュラム

- ・ 幼児教育と小学校教育の違い
- ・ 小学校入学後に子どもたちが抱える課題
- ・ 幼小協働の架け橋期のカリキュラム開発

V 幼児教育施設における取組

1 めざす子ども像実現のための幼児教育の取組の具体

(1) 学びの循環



遊びのプロセス	見られる姿
遊びの創出	遊具、素材、用具や場の選択・準備 友達との誘い合い
遊びへの没頭	楽しさや面白さの追求、 試行錯誤、工夫、協力、 失敗や葛藤、問題の解決、 折り合い、挑戦
遊びの振り返り	振り返り 明日への見通し

(2) 小学校接続を見通した視点

- ・ 遊びを通じた主体的な学びの実践
(小学校以降の生活や学習の基盤としての幼児期の学び)
- ・ 幼児期の発達に応じた子どもの力の育成について発信する力
- ・ 小学校の学びを理解する (生活科を中心として)

(3) 円滑な接続を支える特別支援教育 (保育における特別支援教育の視点)

- ・ 特別な配慮を必要とする子どもへの支援
- ・ 家庭への支援

2 施設内研修における人材育成

- ・ 保育者に求められる専門性

3 家庭・地域との連携

- ・ 家庭教育との連携……「生活していく力」「コミュニケーション力」
- ・ 家庭教育をサポートする役割……直接的体験、地域との関わり重視

VI 小学校における取組

1 小学校生活スタート期の工夫

- ・ 架け橋期の児童の発達段階を考慮した支援
- ・ 幼児教育での生活を考慮した円滑な接続

2 生活科の取組例

- ・ 児童の興味・関心を高める単元構成 (幼児期の学びからの発展)